

# 黒崎羊二氏 連続講座 「住まいから考えるまちづくり」

## ー住民目線で見えるコミュニティ再生のプロセス

第1回講座(10月21日)は「まちづくりの基本的視点」をテーマとして行われました。講師の黒崎羊二氏の40年余の実践の経緯から、まちづくりの要件を抽出した上で、以下のような基本的視点が概説されました。これから1年にわたってこの視点に基づいて、実践的課題を解明することになります。

### 第1回講座のレジメ「基本的視点」(抜粋)

#### (1) 住まいは人々の生活と都市の変貌を規定

- ◇ 人びとの生活を支える都市は、住まいの変化を反映し、その機能・形態は住まいにより規定
- ◇ 都市計画の現実は、「住まいの改善」が主題とならず、都市の変化・開発に際して、「住宅の除却問題」に関心を示す程度



#### (2) 個人の生活を反映するまちづくり

- ◇ 個人の生活が「まちづくり」「都市計画」に反映する様子を見かけることは、ほとんどない
- ◇ 「個」から「全体」を見る流れを重視し、個別の生活要求を積上げ、街区レベルの特性からコミュニティ再生の課題を探る
- ◇ 人びとの生活から離れてまちを語り、まちの将来像がイメージされ、その流れに沿った箱ものの過剰な供給がまちの混迷・衰退を助長

#### (3) 「公共性」で排除される「私的要求」

- ◇ 私的権利を公共性の対立物として排除する傾向、個を軽視する「まちのため、みんなのために」のうさん臭さ(辞典によれば、「公共性」は「社会一般の人びとの生活(利害)にかかわる度合い」)
- ◇ 「公共性は生活要求の共通項」とする考えが成立する
- ◇ 私的要求に立脚しない“公共性”は現実性のない幻想で、まちづくり合意を阻む大きな壁

#### (4) 住まいづくりの合意作法をまちづくりに適用

- ◇ 住まいづくりでは「家族間の合意をもとにした生活空間づくり」が中心課題
- ◇ 住まい手の合意に基づいた空間づくりをまちづくりに適用し、まちづくりの可能性を広げる
- ◇ 住まいの設計者が「まちづくり」に参加し、住まいの改善とともに「合意形成」のコーディネータとしての働きが期待される。設計者の職能を拡大

#### (5) 「住民の主体性を掘り起す」専門家の役割

- ◇ まちづくりのなかで、住民の生活要求を基点とした計画による生活空間の改善が進展
- ◇ 生活要求の掘り起しによって、住民も気づかなかった本質的課題が顕在化する
- ◇ 本質的課題が地域社会の共通認識となることによって人びとの価値観が変わりはじめる
- ◇ この一連の流れのなかで、まちづくりにかかわる専門家がブレない住民目線を身につける
- ◇ 同時に、住民の主体性を確かなものにする重要な役割を担うことが期待される

## 【次回(毎月第三火曜日)の案内】

日時：11月18日(火) 19時～21時

会場：NPO 都市住宅とまちづくり研究会(としまち研)

参加費：4,000円(4講座毎チケット制)(新建会員及び学生は2,000円/4講座毎)

※やむをえず1講座のみ受講も承ります。